

特別
企画

ケアマネは利用者の 人生を左右する「要」

「有資格者」から「プロ」へ飛躍を

介護保険制度と同時に始まったケアマネジャーの業務。業務範囲の拡大など、ケアマネジャーを取り巻く環境は、当時から大きく変わっています。ケアマネジャーの現状と今後の展望について、日本介護支援専門員協会の柴口里則氏に伺いました。



柴口 里則 氏

(一般社団法人 日本介護支援専門員協会 会長)

能力向上で「選ばれる」 ケアマネジャーに

——昨今、「ケアマネ不要論」という鋭い言葉も聞こえます。そんな今あらためて、ケアマネジャーとはどのような立場だと考えますか。

介護保険の要を担う存在。これは基本ですね。介護保険という公的保険の要です。「福祉」以前に「公的保険」である。ここが重要です。公的保険はなくしてはいけません。その要であるケアマネジャーは、在宅介護、そして共生社会のなかで今後もっと活動の幅が広がっていく重要なポジションです。

先ほど「保険」という話をしましたが、在宅介護を支えるのは、医療保険と介護保険です。病気のことは医療保険。医師が担います。介護のことは介護保険。ケアマネジャーが担当。ケアマネジャーは、医師と同じように、利用者の

人生を左右する存在です。利用者にとって、かかりつけ医と同じくらい重要な立場。そのためには、医師と同様の「プロフェッショナル」になる必要があります。

——「プロフェッショナル」とは？

介護保険制度が始まって20年以上が経過し、ケアマネジャーも成人年齢を超えたといえます。共生社会のなかで必要とされる存在であるとともに、自分たちで活動の領域を広げていく。それが成人であり「専門職」。目の前の仕事をこなすだけの「有資格者」ではなく、自己研鑽をして活動の幅を拡大するのが「プロフェッショナル」です。

医師は、患者が選びます。ケアマネジャーも、利用者が選ぶ時代になるでしょう。能力が高く信頼されるケアマネジャーはたくさんの利用者選ばれて、報酬も上がるようになっていきま

す。能力と報酬は相乗効果で上がっていくのです。

「知識」と「意志」のある 利用者の時代へ

——これからのケアマネジャーに必要なことは？

今後、昭和40年代に学生運動などさまざまな経験をした、団塊の世代の方が利用者になります。自分の意見と意志をもち、はっきりとそれを主張する世代です。さらに、インターネットでなんでも調べられる時代。あらかじめ介護保険などの知識をもってケアマネジャーとの面談をするでしょう。

ケアマネジャーは、利用者の希望や課題を受け止め、課題解決に向けた意思決定のサポートをする役割。そして、利用者が自分で決めた道を安全に導くために、本人の望みを叶えるケアをマッ